

橿原市第2期子ども・子育て支援事業計画 パブリックコメント回答（案）

資料2

1. 意見の募集期間  
令和元年 12月3日から令和元年 12月27日まで
2. 意見の応募数と件数  
意見応募件数：1件（メール） 延べ意見件数：6件
3. 意見の概要と市の考え方

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	4ページ 基本理念 「子育てロマンの まち かしはら」	せっかくのスローガンだが、「子育て」と「ロマン」という言葉の接続と、やりたいことのイメージが伝わりにくいように思う。ロマンという言葉は、現実的な問題に向き合っていないような印象も受けてしまう。子育て世代がより誇れるスローガンにならないものか。	「子育てロマン」という言葉には、橿原市がめざすべき子育ての理想像として、「子どもを安心して生み育てることができる基盤整備を進めるとともに、子どもと共に保護者も成長し、未来に夢や希望が持てる、そして子育て世代に選ばれる橿原市の実現を目指す」という思いが込められています。 このスローガンは、これまでの子育て支援の取り組みにおける本市の基本理念として位置付けてきたものであり、今後も目指すべき橿原市の姿として継続的に取り組んでいきたいと考えております。
2	21ページ等 「ママヘルプ サービス」	低価格で利用できるのは魅力的だと思うが、利用者の実績は少ないように感じる。事前のチケット購入やその他手続きが煩わしいなどといった意見はあるのか。 また、広報等でサービスの内容や利用の様子等について写真を入れ詳しく説明するなど、情報発信してはどうか。	妊娠届出時や妊娠途中の個別面談等の中で事業の紹介をおこない、妊娠中に手続きができるよう体制をととのえており、また来所困難な場合は郵送での手続きも可能としているため、そういったご意見は今のところありません。 現在、市のホームページや子育てリーフレット、チラシ等で情報発信に努めているところですが、広報掲載等、今後も工夫していきたいと考えています。
3	58ページ 「電話相談の充実」	①以前は電話での子育て相談を子育て支援課が行っていたと思うが、今は「健康増進課」に一本化されたのか。 ②電話相談の窓口は、相談に乗る担当者が直接電話に出してくれる「専用ダイヤル」とした方がよいと考えている。不安でいっぱい妊婦や親は、電話をかけるだけでも心理的なハードルは高く、電話の第一声が事務的だったり「担当者に繋がります」と待たされたりするのはよくない考える。また、悩んだら小さいことでもここにかけるとアピールすることがよいのではないかと思う。	電話による子育て相談につきまして、現状の取り組みとしては、健康増進課、子育て支援課、こども未来課の3課にて、相談内容に応じた対応を行っております。 いただいたご意見を受けまして計画への記載内容を見直すとともに、引き続き、効果的な電話相談を進めていきたいと考えております。 専用ダイヤルという形ではありませんが、妊娠届出時等に地区担当保健師の氏名をお伝えし、相談しやすい体制を整えています。また、担当者が不在の場合は、折り返し電話を入れる又は、すぐの対応が必要な場合は担当者以外の専門職が電話対応にあたり、悩みの解消に努めています。今後も相談しやすい体制整備に努めてまいります。

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
3	58 ページ 「電話相談の充実」	③「妊産婦・乳幼児相談窓口」という名称は硬い印象があるので、他に良い名前があればと思うがどうか。	窓口の名称につきましては、誰にでもわかる名称をつけることで、相談しやすくなると考えています。
		④相談項目に「親の心と体に関すること」というような文言を増やしてはどうか。子どもの成長のことは相談できても、自分が子育てで悩んでいる・楽しく感じられないことに対する悩みは相談しにくい。積極的に受け付けることをアピールし、気軽に相談できる、気持ちに寄り添う相談窓口であってほしいと思う。	現在も、子育てで悩んでいたり、楽しく感じられない等の相談に対応しておりますが、より相談しやすい窓口になるよう、P.58 のNo.48 の「内容」文中に「子育て中の親の心と体に関すること」を追記します。
4	60 ページ 「育児相談の充実」  ※原文では「子育て相談の充実」と記載	限られた施設で「相談を受け付けているから来てください」という受け身の支援だけでなく、積極的に親たちの輪に入っていきような支援を模索していただきたい。 (例えば、「こども広場」にいる幼稚園の園長経験者が保育スペースに出てきてくれたり、集会所に保育士や保健師等が巡回してくれたりして、世間話のような内容から悩みを聞いてアドバイスしてもらえるような環境が望ましいと思う。)	子育て相談の内容につきましては、計画にも記載しておりますように、より充実を図っていくものであります。いただいた貴重なご意見を、今後の取り組みへの参考としながら、利用者のご意見の把握に努めつつ、さらなるサービスの質の向上に努めてまいりたいと考えております。
5	66 ページ 「子育てが楽しい人の割合」	①就学前児童の保護者で 74.4%が楽しいと感じているという数字だけを捉えないでほしい。37 ページの「子育てに関する不安や負担感はあるか」という項目で、「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」が合わせて3割半から4割弱となっており、40 ページの「子育てに自信が持てない」という項目では、「よくある」と「時々ある」が合わせて 80.5%である。	「子育てが楽しい」という回答の捉え方と、「子育てに関する不安や負担感」や「自信が持てない」という方がいらっしゃることを両面を捉えながら、計画に沿った取り組みを進めてまいりたいと考えております。そのため、指標には「子育てに困難を感じる人の割合」及び「子育てに自信が持てない人の割合」の「減少」についても目標としているものであります。
		②親に「子育てが楽しくない」「どちらともいえない(楽しくないことはないけど、楽しいとも言えない)」という回答をさせることは酷なことだと思う。この数値の上昇が子育て支援の成果とつながるのかどうかはわからないが、可能であれば「楽しいですか」という聞き方以外の方法を考えていただきたいと思う。	こちらの項目については、第 1 期計画策定時のアンケートでも設定しており、経年変化の比較などにより分析しているものです。今回のご意見を受け、今後のアンケートでは質問項目を検討していきたいと考えております。

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
6	66 ページ 「育児に参加する 父親の割合」	①「よくやっている」と「時々やっている」の合計が 85.2%と なっている。数値の増加が目標となっているが、ここでは「よ くやっている」の増加をめざすことが重要ではないか。また、 「育児に参加」というのも、家庭によって捉え方は違うので、 内容も曖昧になりがちであるし、日本では、父親の育児参加に 対する期待値が低い可能性もある。	「よくやっている」の増加をめざすことが重要であります、それぞれの家庭状 況より父親の育児参加がどれだけ可能かもさまざまですので、少しでも育児参加を 増やす事を目標にし、「時々やっている」割合を目標値に含むこととしています。 また、こちらの項目については、第 1 期計画策定時のアンケートでも設定してお り、経年変化の比較などにより分析しているものです。
		②家族で家事や育児を心地よくシェアする方法を、子ども対象の イベントと共催するなど、育児の敷居を低くするなどの工夫も 必要かと思う。夫婦でやるのがあたりまえの空気になり、実際 にそうっていけばいいと思う。	父親の育児参加については、「両親学級」「育児相談」「健診」や、「パパとクッキ ング」、「親子で楽しむ運動遊び」といった各種教室・イベントなど、さまざまな機 会を捉えながら、さらなる促進が図れるように取り組んでまいります。